[総評 国語]

発 行 者	総評	備考
	(I) 単元の配列については、各領域をつなぐ教材として「学びを	I 年
	支える言葉の力」を設定し、各領域の学習に活用できる工夫が	P128
	見られる。また、学年末教材に、I年間で身に付けた力を使って	 年
	自分や社会の課題について考える総まとめの教材が設けられ、	P220
	学習で身に付けた力の定着と活用を促す工夫が見られる。	
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学習のポイ	
	ントとして示された「言葉の力」を基に、読み深めたり、グル	Ⅰ年
2 東 書	- プで話し合ったりする学習活動を設けることで、学びを深め	P126
	ながら学習を進められる工夫が見られる。	
	地域の実態から、話合いを深めることが難しいという課題に	
	ついて「対話の学び」で話の聞き方や質問の仕方を設定したり、	I 年 P48
	具体例を提示することで意見を基に話合いを広げたり、深めた	
	りしようとする態度を育成できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、各教材に示した二次	1 年
	元コードにデジタルコンテンツの内容を分かりやすく示し、生	P126
	徒が必要に応じてすぐに参照できる工夫が見られる。	
	(1) 単元の配列については、「読むこと」の学習において「読み方	年
	を学ぼう」を設定し、学びを広げたり、深めたりする工夫が見	P78
	られる。また、「読むこと」と「書くこと」の関連付けた単元も	1年
	設けられ、領域をつなげることで、学習内容の理解と定着を促	P4
	す工夫が見られる。 (2) さなめ、対話ので深い営びも展開させてもぬに「田老の古法	1 左
	(2) 主体的·対話的で深い学びを展開させるために、「思考の方法」 で問いをもつことの大切さに触れ、思考を手助けするチャート	Ⅰ年 PI6~20
	で同いともうことの人切さに触れ、心气と子助けりるテヤート の一覧を示すことで、生徒が問いをもちながら学習活動を進め	P1620
15 三省堂	ることができる工夫が見られる。	
	地域の実態から、読解力が不足しているという課題について、	I 年 D/I/I
	「読み方を学ぼう」で説明文の構造や行動描写等の読み取るポ	78、
	イントを設定することで、作品の内容理解が深まり、自分の考	86
	えに役立てようとする態度を育成できる工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末の「二次元コード	
	参照先コンテンツ一覧」において、資料の種類を分かりやすく分	l 年
	類し、生徒が必要に応じて活用できる工夫が見られる。	P358
	(1) 単元の配列については、応用的な問題として「学びのチャレ	年
	ンジ」が配置され、自分の学びを確認できる工夫がされている。	P192
	また、「話すこと・聞くこと」「書くこと」では、教材末尾に学	P53、77
	びを生活にどのように生かすことができるかを示すことで、学	
	習内容の定着と活用を促す工夫が見られる。	
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の冒頭	 年
	で「学びナビ」が設定され、何を学ぶかを明確にすることで、	P90
17 教 出	生徒の主体的な学びを引き出したり、読みを深めるための思考	
	のヒントを具体的に示したりするなどの工夫が見られる。	
	地域の実態から、読解力が不足しているという課題について、	I 年 P24、
	「学びナビ」を設定することによって、読む視点を得て、構成	90
	や展開に留意したり、情報を整理したりしながら的確に読もう	
	とする態度を育成できる工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、二次元コードの「ま	年
	なびリンク」において、学習に役立つ情報をウェブサイトで参	PI4
	照できるようにする工夫が見られる。	P106

		(I) 単元の配列については、教材につながりをもたせ、資質・能	年
	力を活用して学びを深めたり、異なる領域で同じ話題を扱い、	P137、138、	
		考えを深めたりする工夫がみられる。また、教材の後に設定し	140
		た「学びのカギ」を手掛かりに、「学びへの扉」に沿って学習す	P137
		ることで、学習内容の理解と定着を促す工夫が見られる。	
		(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、教材の学習	年
		の流れが段階的に示された「学びへの扉」や学習のポイントが	PI14、115
 38 光 村	VĽ ++	まとめられた「学びのカギ」が設けられ、生徒が見通しをもち、	
30	元 们	自らの学びを確認しながら学習に臨める工夫が見られる。	
		地域の実態から、話合いを深めることが難しいという課題に	I年PI22、
		ついて「聞き方の工夫」を提示し、「話す・聞く」の学習内容を	280
		段階的に示すことで、対話を充実させ、思考を深めようとする	
		態度を育成できるような工夫が見られる。	
		(3) 学習効果や使用上の利便性については、「ICT活用のヒント」	 年
		、、 において、各領域での ICT の活用場面や参考となる資料を示し、	巻末
		効果的に ICT を活用することができる工夫が見られる。	

[総評 書写]

発 行 者	総評	備考
2 東 書	(1) 単元の構成に関しては、「書写のかぎ」で示された学習のポイントをもとに「見つけよう」「確かめよう」「生かそう」の3段階で学習し、「振り返ろう」で説明させることで、学習内容を焦点化して学びを進められる工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「生活に広げよう」では、日常生活において文字を手書きする具体的な場面を通して、書写学習で身に付けた力の生かし方について話し合う活動を設定する工夫が見られる。 地域の実態から、学んだ知識や技能を生かすことについて、「生活に広げよう」を設定することで、積極的に書写の力を生	P4(I 年)
	かそうとする態度を育成できるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、説明の文言を文節で改行したり、小学校で学習していない漢字には初出箇所にルビを付けたりすることで、生徒への支援となる工夫が見られる。	PI4(I 年)
	(I) 単元の構成に関しては、各教材に「書き方を学ぼう」を設けて学習内容を習得させ、単元末の「書いて身につけよう」において、学習内容を硬筆や日常生活に生かすことができる工夫が見られる。	PI8(I 年)
15 三省堂	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、学年末教材の「やってみよう」での新聞や情報誌の制作において、これまでの学習を生かした作品を作り上げるためのグループ活動を設定する工夫が見られる。 地域の実態から、学んだ知識や技能を生かすことについて、資料編に「日常の書式」を設定することで、積極的に書写の力を生かそうとする態度を育成できるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、学年や学習内容ごとにアイコンや色を変えたり、区切り線や囲い線をつけたりするなど、生徒が見やすく学びやすいレイアウトとなるよう工夫が見られる。	P44(I 年) P78(資料編) PI2(I 年) P23(I 年)
17 教 出	(1) 単元の構成に関しては、教材が「目標」「考えよう」「生かそう」「振り返ろう」の4段階での学習手順となっており、各毛筆教材の導入「試し書き」において、硬筆で書かせることで毛筆と硬筆の学びをつなぐ工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「学習の進め方」の「考えよう」において、課題解決的な学習や話合い活動を通した学び方を示し、自らの課題意識や話合いの活性化を促す工夫が見られる。 地域の実態から、学んだ知識や技能を生かすことについて、巻末に「書式の教室」を設定することで、積極的に書写の力を生かそうとする態度を育成できるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、淡い色使いをベー	PI4(I 年) PI08 (書式の教室)
	スに AB 判で作られており、大きな紙面で作品等を見ることができ、文字や作品により注目して学習することができるという工夫が見られる。	表紙

	(I) 単元の構成に関しては、「考えよう」「確かめよう」「生かそ	P34(I 年)
	う」の3段階の学習過程となっており、「学びのカギ」において	
	学習のポイントを具体的な説明やイラスト等で視覚的に示し、	
	学習内容を確かめながら学習できる工夫が見られる。	
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各毛筆教材	P48(I 年)
	の「考えよう」において自分で課題を発見させたり、「コラム」に	P88(3年)
	おいて、文字に関する様々な問いを投げかけ、話し合う活動を	P109 (3年)
38 光 村	設定したりする工夫が見られる。	
	地域の実態から、学んだ知識や技能を生かすことについて、	
	「日常に役立つ書式」を設定することで、積極的に書写の力を	
	生かそうとする態度を育成できるような工夫が見られる。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、行書の特徴をアイ	P52(I 年)
	コンで示すことでどの題材でもポイントを明確にしたり、筆使	P55(I 年)
	いを擬態語を使って表現したりして、筆の動きをイメージしや	
	すくする工夫が見られる	

[総評 社会(地理的分野)]

発行者	総評	備考
	(I) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章の構成は、 課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れ で構造化され、単元を貫く探究課題を解決していく学習活動 ができるような工夫が見られる。	P4
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」 を育成できるよう、単元の終わりに「探究課題を解決しよう」 が設定してあり、地域のこれからを思考・判断・表現し課題 を解決する力を高めるような工夫が見られる。	P127
2 東 書	地域の実態から、学習への取組や定着に差があることについて、「確かめよう」や「探究課題に答えよう」に取り組むことで、知識的な内容を問う問題から思考力・判断力・表現力を問う問題に取り組むことができ、個々の能力に対応する工夫がみられる。	P24
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、導入で印象的な 写真を掲載し、興味・関心を高めさせたり、章や節ごとに単 元を貫く問いについて独立したページを設けて、学習内容の 見通しをもたせたりする工夫が見られる。	P60
	(I) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成 は、とびら・導入ページ、本時ページ、学習のまとめと表現 ページになっており、見通しや振り返りの学習活動に取り組 みやすくなるような工夫が見られる。	P25
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」 を育成できるよう、「クロスロード」が設定され、学習内容 を活かして、生徒が地域の課題解決に向けて思考・判断・表 現できるような工夫が見られる。	P230
7 教出	地域の実態から、学習への取組や定着に差があることについて、「学習のまとめと表現」を流れで学習することで、知識的内容を問う問題から思考力・判断力・表現力を問う問題が示してあり、個々の能力に応じて取り組める工夫がみられる。	P24~25
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、「LOOK」「THINK」等の見出しを設け、学習の視点を提示したり、章や節のまとめにおいて様々な種類の思考ツールを多用することで学習内容の可視化を図ったりする工夫が見られる。	P58~59

1		
	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成	巻頭 5
	は、単元の見通しのページ、毎時の学びのページ、単元の振	
	り返りのページとなっており、単元を通した学習活動に取り	
	組みやすくなるような工夫が見られる。	
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	P150
	を育成できるよう、「アクティブ地理」が設定され、地域の	
	課題について習得した知識や技能を使って実践的に考えて	
	いく学習を通して、思考力を高めるような工夫が見られる。	
46 帝国	地域の実態から、学習への取組や定着に差があることにつ	P8
	いて、「学習を振り返ろう」が二段階になっており、知識的	
	な内容を問う問題から思考力・判断力・表現力を問う問題が	
	- 示してあり、個々の能力に応じて取り組める工夫がみられ	
	る。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、大きく鮮やかな	P64
	- 写真やイラストを多用し、興味・関心を高めさせたり、章や	
	節のまとめにおいて思考ツールを活用することで学習内容	
	の可視化を図ったりする工夫が見られる。	
	(1) 社会科地理的分野の目標を達成するために、章・節の構成	巻頭 7
	は、学習のはじめに、問いの設定、本文、まとめとふり返り	
	のページとなっており、学習の見通しと振り返りができるよ	
	うな工夫が見られる。	
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	P233
	を育成できるよう、単元ごとに「自分の考えをまとめよう」	. 200
	が設定してあり、既習事項を整理し、地域の課題を思考・判	
	断・表現することができるような工夫が見られる。	
	地域の実態から、学習への取組や定着に差があることにつ	PIO
	いて、「まとめとふり返り」が段階的になっており、知識的	110
	な内容を問う問題から思考力・判断力・表現力を問う問題に	
	取り組むことができ、個々の能力に対応する工夫がみられ	
	る。	
	る。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、章や節ごとに単	P175
	元を貫く問いについて独立したページを設けて、学習の見通	1175
	しをもたせたり、ポートフォリオを活用することで思考の整	
	ひをもたせたり、ホードフォリオを冶用することで思考の登 理をさせやすくしたりする工夫が見られる。	
	垤とことですくしにりりる工大が兄られる。	

[総評 社会(歴史的分野)]

発 行 者	総評	備考
	(I) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成 は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという 流れで構成されており、学習の流れを可視化し、課題を解決 する力を育てることができるような工夫が見られる。	P6
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」 を育成できるよう、学習内容を「ウェビング」などの「思考 ツール」を活用して整理したり、グループ学習「みんなでチャレンジ」コーナーを設けたりするなどの工夫が見られる。	P60
2 東書	地域の実態から、各時代の共通点や相違点に着目して説明 することを苦手としていることについて、時代の特色の捉え 方を比較・相互の関連・現在とのつながりの3つを示すこと で視点が絞られ、資料を根拠として、説明する力を育成でき	P14
	るような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、各ページ下「チェック&トライ」で 時間の学習をふり返った後、数ページ先の「探究のステップ」のページを示すなどして、各章や節のまとめと、そのまとめを基にした探究課題の解決が効率的に行える工夫が見られる。	PIII
	(I) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成 は、とびら・導入ページ、本文・特設ページ、学習のまとめ と表現ページとなっており、「問い」を軸にして課題解決的 に追究していくような工夫が見られる。	РП (2)
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」 を育成できるよう、学習したことを活用して表現する「表現!」や各章の最後に学習を振り返る「学習のまとめと表現」 ページを設定するなどの工夫が見られる。	P23
17 教 出	地域の実態から、歴史的事象間の因果関係を、諸資料を基に考察することが苦手であることについて、「Think!」「歴史の技」などのコーナーで、資料の見方や考察の視点を示すことで、資料から読み取った事実を基に、考えを深める力を育成できるような工夫が見られる。	P219
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認!表現!」で 時間の学びをふり返り、さらに、各章の学習を振り返る「学習のまとめと表現」では、3段階の構成で、基礎・基本の定着とともに、次の章への準備を効率的に行える工夫が見られる。	P202~203

	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成 は、単元の見通しページ、毎時の学びページ、単元(章)の 振り返りページとなっており、学習の見通しと振り返りがし やすいような工夫が見られる。 (2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	P 巻頭 5 P225
	を育成できるよう、巻頭「考えを整理する方法〜思考ツールを活用しよう〜」で、学習で有用な思考ツールを紹介したり、 それを用いる場面を多く設定したりするなどの工夫が見られる。	
46 帝 国	地域の実態から、各時代の共通点や相違点に着目して説明 することを苦手としていることについて、各時代の導入にあ る「タイムトラベル」を活用することで、既習事項との関連 や相違点に気付きやすくなり、イラスト等を用いて説明する	P134~135
	カを育成できるような工夫が見られる。 (3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の「確認しよう・説明しよう」で 時間の学びのふり返りができる。さらに、各章末尾の「学習を振り返ろう」で各章・節の問いについて考えさせ、各時代の特色の考察が効率的に行	P229
	える工夫が見られる。	211
	(I) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、 扉「日本史と世界史の帯年表」のページ、本文ページ、まと	P14~15
	# 日本文と世界文の帝中校」の、 フ、本文、 フ、まと めのページとなっており、世界史を含めた歴史全体の流れを	
	つかむことができるような工夫が見られる。	
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	P16
	を育成できるよう、各単元の学習課題、ステップアップの課	
	題、図版に付した発問など、各所に設けた発問を自ら考え、	
	判断する力を身に付けられるような工夫が見られる。	2.5
81 山 川	地域の実態から、歴史的事象間の因果関係を、諸資料を基 に考察することが苦手であることについて、写真や資料など	PI7
	にも問いを付けることで、問いを基にして考える視点を明確	
	にし、資料についてより深い考察をする力が育成できるよう	
	な工夫が見られる。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の	P60
	「ステップアップ」で、「時間の学習内容を踏まえた発展的	
	な学びにつなげている。章末の「まとめ」では、様々なパタ	
	ーンの発問を通して、生徒の主体的・対話的な活動を促す工 夫が見られる。	
I		

W.		п
	(I) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章・節の構成 は、学習のはじめにページ、本文ページ・まとめとふり返り	P2
	のページとなっており、生徒が問いを立て、学習の見通しと	
	振り返りができるような工夫が見られる。	
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	P257
	を育成できるよう、各章末に「まとめとふり返り」を設け、	
	時代の特色をまとめさせたり、考察する際に活用できる思考	
	ツールを随所に設けたりするなどの工夫が見られる。	
	地域の実態から、各時代の共通点や相違点に着目して説明	P257
	することを苦手としていることについて、各単元のまとめの	
	中で前の時代の特色を図や表を使って比較することにより、	
	各時代の特色を構造化して捉え、表現する力を育成できるよ 	
	うな工夫が見られる。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の	P62~63
	「確認・表現」で、「時間の学習をふり返ることができる。	
	さらに、編末の「まとめとふり返り」では、習得した知識の	
	確認のあと、各編・節の問いに答えることで、時代の特色を 考えさせる工夫が見られる。	
	(1) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、	P68
	(1) 社会行歴文的分割の台標と建成するために、早の構成は、 導入ページ、本文ページ、章末に調べ学習・復習問題・時代	1 00
	の特徴を考える・対話とまとめの図のページとなっており、	
	章全体を構造的に関連付けて構成するような工夫が見られ	
	る。	
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	P67
	を育成できるよう、各章の章末において、生徒の探究をうな	
	がす課題学習のページや時代の特徴を考えさせるページを	
	設定するなどの工夫が見られる。	
225 自由社	地域の実態から、各時代の共通点や相違点に着目して説明	P67
	することを苦手としていることについて、「時代の特徴を考	
	えるページ」で人物比較や一言作文など、様々な視点から時	
	代の特色を捉えることにより、学習内容を構造化できる力を	
	育成するような工夫が見られる。	244
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、見開き最後の	P64
	「チャレンジ」で、1時間の知識の整理ができる。さらに、	
	章末に「調べ学習→復習問題→時代の特徴を考える→対話と まとめ図」のページを設け、段階を追って時代を大観させる	
	まとめ図」のペーンを設け、技階を追っく時代を入観させる 工夫が見られる。	
	一 一大が兄り作る。	

	·	
	(I) 社会科歴史的分野の目標を達成するために、章の構成は、	P77
	本文ページ・特設ページ(コラム)、章のまとめページとな	
	っており、我が国の歴史の特色や歴史の連続性をより実感で	
	きるような工夫が見られる。	
	(2) 未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」	PII8
	を育成できるよう、各時代の章末において、まとめを行うコ	
	ーナーを設け、その中で政治・文化・外交・産業の4つの観	
	点でまとめさせるなどの工夫が見られる。	
22/ 4 #	地域の実態から、各時代の共通点や相違点に着目して説明	PII8
236 令 書	することを苦手としていることについて、全ての時代を導入	
	からまとめまで政治・文化・外交・産業の視点から捉えさせ	
	ることにより、各時代の特徴を比較する力を育成できるよう	
	な工夫が見られる。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、本文の時代の転	PI8
	換時には「先土器時代以前」や「平成時代」という見出しを	
	設けている。さらに、各章末に「まとめ学習」を配置し、政	
	治・文化・外交・産業別に時代の特色をまとめ、全体像を掴	
	ませる工夫が見られる。	

[総評 社会(公民的分野)]

発行者	総評	備考
	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題をつかむ、課題を追究する、課題を解決するという流れで構成されており、単元を貫く探究課題を解決していく学習活動ができるような工夫が見られる。	P4
	(2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、持続可能な社会の実現に向けた課題を 意識する巻頭ページや社会に参画する態度を養う「18 歳へのス テップ」を設けるなどの工夫が見られる。	P138~139
2 東 書	地域の実態から、社会的な課題に気付き、多様な概念を関連付けて考察・構想する力について、様々な思考ツールを用いて自分の考えをまとめるページや「探究課題を解決しよう」などのページの設定によって、社会的な課題について多面的・多角的に考察する力を育成することができるような工夫が見られる。	P178~179
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、導入からまとめまでの 学習の流れが分かりやすくデザインされており、学習のまとめで は思考ツールを使って自分の思考を整理し、課題解決につなげる 工夫が見られる。	P32~35
	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、課題を捉え見通す導入ページ、追究する本時ページ、捉えなおし深める特設ページ、学習のまとめと表現ページになっており、見通し・振り返ることができるような工夫が見られる。	P4~5
	(2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」を涵養できるように、「持続可能な社会に向けて」で持続可能な未来を意識させたり、巻末の「私の提案」で実社会の課題を向き合い探究させたりするなどの工夫が見られる。	P96~97
17 教 出	地域の実態から、獲得した知識・技能をもとに、社会的な 見方・考え方を深めることができない課題について、資料の 読み取りの視点を養うための「Q」や「公民の窓」を設定す ることで、獲得した見方・考え方を活かして社会的事象につ いて考えを深めていく力を育成することができるような工 夫が見られる。	P57
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、各章を見通す導入ページや学習を振り返るページを設けて、課題を捉え、見通しを立てやすくすることで、学習内容の理解につなげる工夫が見られる。	P37

	//> >1 A AI N = I N M = = = I I	W-T-
	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、章・	巻頭5∼6
	節・見開きごとに問いと振り返りを設け、学習した内容を積み重ね	
	ながら、章の問いを追究していくことができるような工夫が見られ	
	る。 	
	(2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性	P214
	等」を涵養できるように、巻頭で持続可能な社会の実現に向けた	
	意識を育ませたり、「未来に向けて」で未来の社会をつくる取組を	
	確認できたりするなどの工夫が見られる。	
46 帝 国	地域の実態から、社会的な課題に気付き、多様な概念を関	P44~45
	連付けて考察・構想する力について、イラストから社会の諸	
	問題を概観する活動や他者との対話から思考を深める「対話	
	アイコン」を設けることで、社会的課題について考えたり、	
	多面的に考察したりする力を育成することができるような	
	工夫が見られる。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、章や単元に鮮明で読	P2~3
	み取りやすい大判イラストや学習と直結する躍動感のある導入資	
	料を多用し、学習内容の理解につなげる工夫が見られる。	
	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導	P4~5
	人ページ、本文ページ、問いを解決し学びをまとめ・ふり返るペー	
	ジとなっており、「見方・考え方」を働かせて課題を追究する学習	
	活動ができるような工夫が見られる。	
	(2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性	P138~139
	等」を涵養できるように、「SDGsマーク」を用いて持続可能な開	
	発 目標との関連を図ったり、「明日に向かって」でより良い社会	
	参画を促したりするなどの工夫が見られる。	
116 日文	地域の実態から、獲得した知識・技能をもとに、社会的な見方・	P130
	考え方を深めることができない課題について、「見方・考え方」コ	
	ーナーを全てのページに設定することで、生徒が学習を通して獲	
	得した見方・考え方を働かせて、社会の諸問題について考察する	
	力を育成することができるような工夫が見られる。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、イラストなどを活用し、	P7 I
	、, 見通しをもって学習に取り組める単元構成になっており、新しい	
	事例や生徒が身近に考えられる事例を取りあげるなどの工夫が	
	Blaz	
	見られる。	

	(1) 社会科公民的分野の目標を達成するために、章の構成は、導	巻頭viii~ix
	人ページ、本文ページ、学習のまとめと発展のページとなってお	
	り、毎時間の学習内容について章末で重要語句を確認し、定着さ	
	せる学習活動ができるような工夫が見られる。	
	(2) 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性	P213
	等」を涵養できるように、「日本人の価値観・感性」から SDGsに	
	ついて考えたり、「やってみよう」で身近な事象と学習内容との関	
225 4 4 3	連を図ったりするなどの工夫が見られる。	
	地域の実態から、社会的な課題に気付き、多様な概念を関	P213
225 自由社	連付けて考察・構想する力について、学習した内容をさらに	
	深く考える「アクティブに深めよう」や「課題の探求」を設	
	定することで、他者と協働しながら、社会的な事象について	
	多面的・多角的に考察する力を育成することができるような	
	工夫が見られる。	
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、イラストとともに章の	P43
	タイトルや導入となるコメントを掲載したり、単元の最後に授業で	
	おさえるべき重要な確認事項をまとめたりするなどの工夫が見ら	
	れる。	

[総評 社会(地図)]

発 行 者	総評	備考
	(I) 社会科の目標を達成するために、巻頭では地図記号、巻末では地形図の読み取り方、方位などの活用方法が解説されており、地図帳の基本的な見方や使い方が示されている。	P155
	(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、世界の各州と日本の各地方のページに自然・人口・産業などの主題図を共通して掲載したり、世界と日本を比較するページを配置したりするなどの工夫が見られる。	P137~138
2 東 書	地域の実態から、実際の生活で地図を使って調べる経験が少ないことについて、地図帳の活用方法のコーナーを活用することで、地名だけでなく、そこに広がる自然や人々の生活などを知ることができ、情報分析力を育成できるような工夫が見られる。	P5~7
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、前回より大判化したことで、Iページ当たりの情報量が充実した。また、過去と現在の地形を同じページに掲載することで、比較しながら変化を読み取れるなどの工夫が見られる。	PIII~II2
	(I) 社会科の目標を達成するために、巻頭では凡例、地図記号や 方位、巻末では地形図について解説されており、地図帳の基本的 な見方や使い方が示されている。	P195
	(2) 生きて働く「知識・技能」を習得させるために、世界の各州・日本の各地方の主題図をほぼ同縮尺で提示したり、日本の各地方のページに産業の特徴を捉える統計資料を配置したりするなどの工夫が見られる。	P92
46 帝 国	地域の実態から、実際の生活で地図を使って調べる経験が少ないことについて、二次元コード「地図で発見!」を活用することで、誌面情報だけではなく、クイズにも取り組め、興味関心を持ちながら、情報分析力を育成できるような工夫が見られる。	P5~7
	(3) 生徒にとっての分かりやすさについては、世界の各州に、自然環境や生活・文化・産業などをイラストで表記した鳥瞰図を掲載することで、関心を高めながら特色がより視覚的に読み取れるなどの工夫が見られる。	P53~54

[総評 数学]

発 行 者	総評	備考
, J 14 H	(I) 数学科の目標を達成するために、ヒントと解答のある「ク	
	イックチェック」を通して、より短いスパンで学んだことを	
	確認することで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされて	
	いる。また、算数と数学の学びをつないだり、日常生活や社	
	会の事象に関わる問題を発見・解決したりすることで、生徒	
	の主体的な学びを促すような構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「深い学びのペ	 年
	ージ」では課題解決の流れをページ枠に示し、個人で思考し	P57、58
	た後、次ページで話合い活動などを行い、学習内容を深める	
	ことができる構成にすることで、主体的・対話的で深い学び	
2 東 書	を展開することができるような工夫が見られる。	
	地域の実態から、主体的に学習に取り組むことができるよ	 年
	うに、身のまわりや社会などの様々な場面と数学のつながり	P149、150
	を意識づける「MATH CONNECT」が設定され、数学の必	
	要性や有用性を実感できる工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、キャラクターの吹	I 年 P32
	き出しに「同じように考えると」や「それなら」という文言	
	をつけ、学びのつながりを自覚できるようにするとともに、	
	より細かな単位で理解を確認する「クイックチェック」を設	
	けることで、生徒自身がつまずきを早期に発見できるような	
	工夫が見られる。 (I) 数学科の目標を達成するために、練習問題を補充する「プ	l 午 D1/12
	ラス・ワン」等で、練習だけでなく確かめや振り返りも行う	1 7 1 1 4 2
	ことで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされている。ま	
	た、話合い活動を通して見いだしたことがらを、その後の例	
	題や練習問題の解決につなげていく学習過程が、各節ごとに	
	丁寧に示されるなどの構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、各章の「利用」	I 年 PI 20
	の課題では、思考の段階に対応させて問題発見・問題解決の	1 7 1 120
	流れをページの端に示し、仲間と協力して問題解決に取り組	
	んだり、解決の過程を振り返ったりするなど、主体的・対話	
/ + + + + + + + + + + 	的で深い学びを展開することができるような工夫が見られ	
4 大日本	3.	
	地域の実態から、主体的に学習に取り組むことができるよ	 I 年
	うに、導入となる活動や「考えよう」など生徒自身が問いを	P 238、239
	もつ場面が設定され、「MATHFUL」などの読み物資料では	P270
	数学と社会とのつながりを実感できる工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、ウェブコンテンツ	 I 年 P64、
	を使って学習を深めることができる場面にマークをつけ、シ	・
	ミュレーションや動画、資料などのコンテンツを用意すると	2 11-14 54
	ともに、付録に各学年のまとめを掲載し、使用時に教科書か	
	ら切り取って冊子として持ち運ぶことができるような工夫	
<u> </u>	が見られる。	

	T	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·
	(1) 数学科の目標を達成するために、授業や家庭学習で活用で	1年P34
	きる「計算力を高めよう」を通して、多くの問題にチャレン	
	ジすることで、学習内容の習熟・定着を図る工夫がされてい	
	る。また、「章・節のとびら」を設定し、身のまわりの生活	年 1 1 1
	や数学の学習の中から、生徒が自ら問題を発見し、考えるこ	
	とができるようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、節の導入で身近	I 年 P20
	な題材から疑問を見つけ、「Q」では話合い活動から目標を立	
	て、「数学的活動のページ」では、問題を発見し答えに至る	 年
	までの過程を丁寧に示すなど、主体的・対話的で深い学びを	P50、51
学 図	展開することができるような工夫が見られる。	
	地域の実態から、主体的に学習に取り組むことができるよ	l 年
	うに、各章、各節のはじめに「課題を発見する」ページを設	P9~11、19
	定し、生活との関連を意識しながら、数学の学びに向かうこ	
	とができるなどの工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、領域ごとに「ふり	I 年 P I 28
	かえり」のページを挿入し、単元導入時にスムーズにその学	
	年の学習に入っていけるようにするとともに、「さらなる数	I年P275
	学へ」では、一年間の学びを生かして、日常生活や社会の様々	
	な課題を考察したり解決したりできるような工夫が見られ	
	る。 (I) 数学科の目標を達成するために、基礎・基本を確認できる	Ⅰ 年
	「学習のまとめ」から活用問題の「章の問題」へと段階的に	P63~65
	取り組むことで学習内容の習熟・定着を図る工夫がされてい	1 03 -05
	取り組むことで子首内谷の首然、足有を図る工犬がされている。また、小中や各学年の滑らかな接続に配慮し、章を学習	I 年 P72
	る。また、小中で谷子中の消らがな技統に配慮し、草を子首 する前に既習事項を振り返ったり、学び直しをしたりする問	1 1
	する削に既首争項を振り返ったり、子の直しをしたりする向 題を設定するなどの構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、「?(疑問)」か	
	ら、「!(わかったこと)」を見いだし、「!?(新たな疑問)」	P32、33
	へつなげる数学的活動のサイクルを位置づけ、一人一人の生	
 17 教 出	徒が問いをもって学びあえるなど、主体的・対話的で深い学 びた展開せることができるようなエキが見られる。	
, , ,,	びを展開することができるような工夫が見られる。	
	地域の実態から、主体的に学習に取り組むことができるよ	
	うに、学習過程で生じる生徒の疑問から、学習してわかった	
	ことや解決のしかたを見いだし、さらに新たな疑問へとつな	
	がる構成になっているなど工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、各章の終わりに設	1年
	定した「章の問題」を「たしかめよう」→「力をのばそう」 →「学んだことを活用しよう」という構成にするとともに、	P207~209
	→ 「子んたことを活用しよう」という構成にするとともに、 デジタルコンテンツ「まなびリンク」で解決の手立てを示す	
	など、生徒の理解度に応じて学習を進めることができるよう	
	な工夫が見られる。	

	(I) 数学科の目標を達成するために、各自で取り組める多様な	I年P54、55
	問題が章末に用意され、基本から発展まで習熟度に応じて取	
	り組めるなどの学習内容の習熟・定着を図る工夫がされてい	
	る。また、既習事項である基礎的・基本的な内容を必要な場	I 年 P68
	面で確かめることができる「確かめ」で、生徒のつまずきを	
	未然に防ぐようにするなどの構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 数学的な見方・考え方を働かせるために、問題解決型の「学	I年P52、53
	び合おう」では、自分で考え、対話を通じて学び合う問題解	
	決の過程を示し、また巻末には「ふり返りシート」「対話シ	I 年 P297
	ート」を用意し、考える力や説明する力を高めるなど、主体	
	的・対話的で深い学びを展開することができるような工夫が	
	見られる。	
	地域の実態から、主体的に学習に取り組むことができるよ	I 年 P 79
	うに、各章に「学びに向かう力を育てよう」を設け、生徒が	
	課題に取り組む際に、多面的に考えたり、粘り強く取り組ん	
	だりすることができる工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性を図るため、デジタルコンテン	I 年 PI 42
	ツを使うと有効な場所に二次元コードを配置し、その上に分	
	類を付記するとともに、生徒が苦手を克服できるように、ま	
	ちがえやすい箇所に「誤答に注意!」を表示したり、「表現	年P105
	の例」として分かりやすい説明を具体的に示したりするよう	
	な工夫が見られる。	

[総評 理科]

発 行 者	総評	備考
	(1) 理科の目標を達成するために、「じっくり探究」を設定し、	2年P2
	問題解決の力を重点的に育成することができるようにして	~P3
	いる。また、それぞれの章ごとに「Before & After」で学習	2年P50
	前後の自分の考えを記録することにより変容を知る機会を	~P55
	つくるなど、生徒が見通しをもって学習に取り組み、振り返	2年P49
	りができるような構成・配列等の工夫が見られる。	2年P52
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各節の導	2年P50
	入の「レッツ スタート!」において生徒が自ら気付きを得	2年P55
	られるように問題を示している。また、「理科の見方・考え	
2 東書	方」を設定し、生徒に見方・考え方を具体的に示すなど、対	
	話を促したり、学びを深めたりするような工夫が見られる。	
	地域の実態から、自ら疑問や課題をもち、主体的に探究す	2年p16
	ることについて、各節の導入における「問題発見」で、理科	
	の見方・考え方が絵や写真を用いて表現されていることで、	
	自ら進んで課題を解決しようとする態度を育成できるよう	
	な工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、 見開き 時	
	間構成となっており、授業の見通しを立てやすくなってい	
	る。また、複雑な思考をシンプルなイラスト等にして掲載す	2年 P I 4
	ることで、生徒の学習意欲を喚起できる工夫が見られる。	
	() 理科の目標を達成するために、単元の導入では「これまで	
	に学習したこと」「これから学習すること」を設定し、学習	~P9
	の系統性や学習の流れを分かりやすく提示している。また、	
	単元末では「探究活動」で、その単元で学習したことを活用	2年P72
	して探究的に課題を解決することを通して、問題解決の力を	~P73
	育成することができるような構成・配列等の工夫が見られ	
	3.	
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各学年で	2年p5
	重視する探究の過程を示し、探究の場面を明確にすること	0 = 0 . =
, , , , , ,	で、主体的な学習を促している。また、「話し合おう」など	2年P65
4 大日本	の対話的活動を設定することで、深い学びが実現できるよう	
	な工夫が見られる。	0 - 1 0
		2年p62
	し、表現することについて、「計画を立てよう」や「結果か	2年p63
	ら考えよう」で、考える視点を提示することで、生徒の興味・	
	関心を高めながら、自分の考えをわかりやすく伝える力を育しまずまるようなエキが思くれる。	
	成できるような工夫が見られる。	2 / D / /
	(3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、多様なキャラ	2年PI4
	クターを用いて、多面的に考えるためのヒントを提示してい	~PI5
	る。また、実験のページに着目点が設定されており、生徒が	
	見通しをもって学習に取り組める工夫が見られる。	

(1) 理科の目標を達成するために、「探究のページ」において、 探究の手法を段階的に理解しやすい構成にしている。また、 「学びのあしあと」「Can-Do List」等を設け、生徒が単元 全体や学習内容の見通しをもって学習に取り組み、学習後に どのような力が身に付き、考えがどう深まったかを生徒自身 が実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面 や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、 探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。 地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方を 示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページにニ次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P8
「学びのあしあと」「Can-Do List」等を設け、生徒が単元全体や学習内容の見通しをもって学習に取り組み、学習後にどのような力が身に付き、考えがどう深まったかを生徒自身が実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
全体や学習内容の見通しをもって学習に取り組み、学習後に どのような力が身に付き、考えがどう深まったかを生徒自身 が実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面 や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
どのような力が身に付き、考えがどう深まったかを生徒自身が実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
が実感できるような構成・配列等の工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、導入場面や仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
・ で仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
・ で仮説の設定、計画立案の場面等で、生徒の話合いのイラストを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
トを提示し、多様な考え方に触れるようにしている。また、 探究の手法を段階的に示すことで、生徒が問題を発見し、話 し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。 地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察 し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を 示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え 方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現 する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二 次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P8
Y 図
し合いながら探究を進められるような工夫が見られる。 地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページにニン、元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P8
地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、考察し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、2年P8
し、表現することについて、「この時間の見方・考え方」を 示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え 方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現 する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページにニ 2年 P I O 次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P 8
示した探究活動の項目を強調することで、理科の見方・考え 方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現 する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二 2年 P I O 次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P 8
方を働かせながら、考察したことを自分の言葉を使って表現 する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページにニ 2年 P I O 次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P 8
する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二 2年 P I O 次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P 8
(3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、全ページに二 2年 P I O 次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P 8
、 次元コードを設け、個に応じた学びを実現している。また、 2年 P8
┃
習内容と日常生活との関連を意識できる工夫が見られる。
(I) 理科の目標を達成するために、巻頭に「探究の進め方」の 2年 P5
折り込みを設け、本文ページを開いた状態でも、探究の過程 巻頭
を確認しながら学習できるようにしている。また、章の導入
と章末において、「学習前の私」「学習後の私」をそれぞれ設 2年 P8
け、学びの深まりを生徒自身が認識できるような構成・配列 2年 P2 9
等の工夫が見られる。
(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「疑問か 2年 P 6 5
ら探究してみよう」を提示し、生徒キャラクターの吹き出し ~p69
をもとに課題を自分事してとらえられるようにしている。ま
た、課題の解決に向けて、生徒が対話的に学習を進め、深い
17 教 出 学びを実現できるような工夫が見られる。
地域の実態から、実験結果等を基に分析・解釈して、表現
することについて、観察・実験の前後で、「考えよう」「話し 2年p27
合おう」「活用しよう」を設定し、探究の場面ごとに問題解
決の支援をすることで、考察したことを表現する力を高める 2年p53
工夫が見られる。
(3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、教科書のサイ
ズや文字を大きくし、視覚的にゆったりとした紙面になって 2年PIO
いる。また、課題と結論を赤囲みで強調することで、生徒が
課題と結論の整合性を意識できるような工夫が見られる。 2年 PI2
2年PI6

	(1) 理科の目標を達成するために、単元の導入では「学ぶ前に	2年PI38
	トライ! 」で身のまわりの疑問について考えさせることで、	~PI39
	生徒に学習の見通しをもたせるようにしている。また、課題	
	の把握から解決までの探究の流れの各段階が、Iつの流れと	
	して視覚的に分かるように示されており、生徒が探究の過程	2年 P 2 0 1
	を意識して取り組めるような構成・配列等の工夫が見られ	
	る。	
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各単元に	2年P35
	一つ「探Q実験」を設定し、「探Qシート」により生徒の主	
	体的な学習を支援している。また、「Action 活用してみよう」	2年 P 4 I
61 啓林館	など、発表や活動の場面を設定することで学びを深めるよう	
	な工夫が見られる。	
	地域の実態から、自ら疑問や課題をもち、主体的に探究す	
	ることについて、視覚的にわかりやすい二次元コード等で図	
	や動画を用いて情報を提示することで、ICT機器を効果的	2年p33
	に活用し、意欲を高めながら、自ら進んで課題を解決しよう	
	とする態度を高める工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性を高めるために、ICT をどの場	2年P7~8
	面でどのように使うのかを明記している。また、章ごとの	巻頭
	「Review」の中で、学びの過程の振り返りを意識できるよ	2年PI7
	うな工夫が見られる。	

[総評 中学校音楽(一般)]

発 行 者	総評	備考
	(1) 表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、教材と選	P8·9
	択可能なオプション教材・資料を組み合わせて扱うことがで	
	きるような工夫がされている。歌唱、鑑賞、創作の分野が関	
	連付けて構成されており、学習内容や教材が一目で分かるよ	
	うに「学習MAP」として示す工夫が見られる。	
	(2) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、全	
	学年の鑑賞領域に、「話し合おう」のコーナーが設けられ、	
	自分の考えをまとめて意見が交流できるようになっており、	
	対話を通して学びが深められるように工夫されている。	
17 教 出	地域の実態から、知識や技能に関する能力差が大きい傾向	
	にあることについて、巻末ページに、中学校で新しく学習す	
	る用語や記号を示した「楽典」や、鑑賞曲で演奏されている	P88~93
	「楽器」をまとめて記載することで、既習事項の復習や確認	
	が効果的にできるような工夫が見られる。	
	(3) 生徒の学習への興味・関心を高めるために、巻頭ページで	
	は音楽界の第一線で活躍している方からの音楽に対する思	P2·3
	いや中学生へのメッセージが掲載されている。また、学習内	
	容を視覚的に示すために、折り込みを使ったワイドな写真の	
	掲載やイラスト、色分けなどの工夫が見られる。	
	(I) 表現及び鑑賞の幅広い活動を実現させるために、ねらいに	P8·9
	応じて教材や学習活動を選択することができるような工夫	
	がされている。育成を目指す力の「思考力・判断力・表現力」	
	「知識」「技能」と対応する題材が構成され、一目で分かる	
	ように見開きのページで示す工夫が見られる。	
	(2) 生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図るために、表	
	現・鑑賞領域に「学びのコンパス」のページが設けられ、自	
	分の考えや感じ取った曲想等をまとめられるようになって	
	おり、対話を通して学びが深められるように工夫されてい	
27 教 芸	3	
	地域の実態から、知識や技能に関する能力差が大きい傾向	5.7
	にあることについて、「My voice!」で、歌唱における歌声作	P14 · 15
	りや、思いや気持ちを歌声にのせる方法を、イラストや文章	
	で分かりやすく記載することで、技能を習得できるようなエ	
	夫が見られる。	
	(3) 生徒の学習への興味・関心を高めるために、巻頭ページでは充寒なたり見ばなるのとして切ったれるとう名思で活躍	
	は音楽をより身近なものとして捉えられるよう各界で活躍	D28.20
	する方から中学生へのメッセージが掲載されている。また、	P38·39
	キャラクターの会話により学習活動のポイントを示すなど、	
	生徒の気付きを促す工夫が見られる。	

[総評 音楽(器楽)]

発 行 者	総評	備考
	(1) 音楽文化と豊かに関わり、音楽を愛好する心情を育むため	P64~97
	に、仲間と一緒に演奏する楽しさや喜びを味わえるよう、そ	
	れぞれの楽器の特徴を生かしたアンサンブル曲の充実が見	
	られる。	
	(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、学習に役立つ	
	演奏や動画を試聴できる二次元コードや、焦点化した写真を	
	示すといった工夫が見られる。また「Let's Play!」「Let's	
	Try!」の中から、学校や生徒の実態に応じて楽曲を選択でき	
 17 教 出	るようになっており、習得した知識・技能を活用することが	
17 叙 山	できるように工夫されている。	
	地域の実態から、器楽演奏に対する知識や技能に関する能	
	力差について、拡大された写真やイラストで、構え方や奏法	P33·34
	の手順を確認することにより、知識や技能を習得できるよう	
	な工夫が見られる。	
	(3) 個別最適な学びを可能にするために、教材に関連した学習	P20
	に役立つ動画や音源を二次元コードの読み取りで視聴でき	
	るように工夫されていたり、既習事項を振り返ることができ	
	るページを示したりといった工夫が見られる。	
	(1) 音楽文化と豊かに関わり、音楽を愛好する心情を育むため	P98·99
	に、日常生活の中で触れる機会の少ない和楽器を演奏する楽	
	しさや喜びを味わえるよう、生徒になじみのある楽曲の充実	
	が見られる。	
	(2) 生きて働く「知識・技能」の習得のために、範奏や伴奏の	P37
	音源が視聴できる二次元コード、奏法を確認できる写真など	
	を示すといった工夫が見られる。また、細かく段階を踏んで	
	技能習得ができるよう短い曲を設定している。「楽器で	
27 教 芸	Melody」では、演奏する楽器を選択して習得した知識・技	
27 致 云	能を活用することができるような工夫が見られる。	
	地域の実態から、器楽演奏に対する知識や技能に関する能	
	力差について、二次元コードで読み取った演奏や練習の動画	
	を活用することにより、知識や技能が習得できるような工夫	
	が見られる。	
	(3) 個別最適な学びを可能にするために、二次元コードの読み	P75
	取りで学習に役立つ動画や音源を視聴できるようになって	
	おり、練習曲の伴奏音源を読み込むことによって個人やグル	
	ープごとの練習がしやすくなるような工夫が見られる。	

[総評 美術]

るページ 美術I PIO 次元コー
組めるよ
て、「作者 美術 P43 各巻末の 容が提示
るようなエーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーーー
:品を取り で、美術 が見られ
で伝わりや 美術2·3 PI5 質や能力
監賞」の小 真や、生徒 の興味関
ご、学習効
図と工夫を 美術2·3 P94 美術科で 構成·配列
制作過程 美術 I P26 ドなされて
生徒の価ような工夫
創意工夫丁寧に取
徒自身の 賞作品が 美術 P54
され、表現 画像や2次 4とのつな
のまとめと習効果や

4	<u> </u>	
	(I) 美術科の目標を達成するために、表紙や巻頭の見開きページ	美術 I P3
	の作品から題材につなげていくことで学びのつながりを意識させ	
	るとともに、各学年の発達の特性に即した題材の構成・配列のエ	
	夫が見られる。	
	(2) 思考をより造形的に捉えるため、完成された作品や写真、	美術 I P42
	アイデアスケッチなどを用い、発想・構想が、鑑賞と表現の	
	双方向から取り組める工夫がなされている。また、作者の言	
	葉を掲載し、より発想・構想を広げ深め、「思考力、判断力、	
	表現力等」を育成できるような工夫が見られる。	
	地域の実態から、新しい技法を用いたり、複数の技術を組	
1 6 日文	み合わせたりすることについて、様々な画材の使い方や技法	
	について巻末に詳しく紹介することで、様々な表現活動への	
	意欲を高める工夫が見られる。	
	(3) 各題材ページでは、表現と鑑賞の一体化を意識した構成にな	美術2・3上
	っており、導入段階で活動や目的をイメージさせるような題材名	P20
	や各題材の導入につながる2次元コード、鑑賞の見方や考え方に	
	気づかせるような問いかけが示され、表現段階で表現のヒントや	
	造形的な視点としての問いかけが示されるなど、授業の流れを考	
	えやすく、生徒に考えさせる工夫で多様な展開も期待でき、学習	
	効果や使用上の利便性を高める工夫が見られる。	

[総評 保健体育]

発 行 者	総評	備考
	(I) 単元の配列に関しては、I 単位時間の流れとして「見つける」「学習課題」「課題の解決」「広げる」の4段階での学習 過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、	P14~15
	さらに「巻末スキルブック」を設け、実生活で活用できるような工夫が見られる。 (2) 内容の面では、未知の状況にも対応できる「思考力・判断	P177~194
0 ± ±	カ・表現力等」を育成するために、小単元ごとに「活用する」 「広げる」を設定し、学習を通して習得した知識・技能を活 用し、再考するなどの実践力を育む工夫が見られる。	PI7
2 東 書	地域の実態から、自己の課題を主体的に解決し実生活に生かすことについて、「日常生活に生かそう」を設定し、日常を振り返り調べたいことを書かせることで、自己の課題解決に取り組み、実生活で活用できるような工夫が見られる。	P26
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、I単位時間の内容を見開き2ページに収め、各ページ左側本文、右側資料となっており、本文の内容に関する資料をすぐに確認できるなど、視線に配慮し、知識を確認するための資料の活用がしや	P14~15
	すい工夫が見られる。 (I)単元の配列に関しては、小単元ごとに「つかもう」「話し	P18~19
	合ってみよう等」「活用して深めよう」の3段階での学習過程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、各章末には「学びを活かそう」で身近な日常生活に活用を促すような工夫が見られる。	PI3
	(2) 内容の面では、未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、章ごとに「学びを活かそう」を設定し、習得した知識・技能を活用して日常生活に活	PI3
4 大日本	かせる実践力を育む工夫が見られる。 地域の実態から、自己の課題を主体的に解決し実生活に生かすことについて、「学びを活かそう」を設定し、習得した知識を実生活に生かす取組を書かせることで、自己の課題解決に取り組み、実生活で活用できるような工夫が見られる。	PI3
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、「単位時間の内容を見開き2ページに収め、本文を左ページ、本文に対応した資料を右ページに掲載することで、知識を深める活動や資料から考察・推察する活動など幅広い授業を展開することができるような工夫が見られる。	P18~19

	(1) 単元の配列に関しては、小単元ごとに「つかむ」「身につ	DIS. IG
	1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1 1	P18~19
	ける・考える」「まとめる・振り返る」の3段階での学習過	
	程とされており、生徒が見通しをもって学習を進められ、各	
	章末には「章のまとめ」を設け、内容の理解や定着、活用を	PI4~I5
	促すような工夫が見られる。	
	(2)内容の面では、未知の状況にも対応できる「思考力・判断	
	力・表現力等」を育成するために、小単元ごとに「学習のま	P18~19
	とめ」を設定し、自己の生活を見直し、自己の課題を修正で	
50 大修館	きる実践力を育む工夫が見られる。	
JU 八 10 代日	地域の実態から、自己の課題を主体的に解決し実生活に生	
	かすことについて、「章のまとめ」を設定し、実生活に生か	P14~15
	すことを考える活動を取り入れることで、自己の課題解決に	
	取り組み、実生活で活用できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、 単位時間の内容	
	を見開き2ページに収め、学習の流れに沿って学習内容と関	P64~65
	連する4種類のデジタルコンテンツを掲載することで、目的	
	に応じて効果的に ICT を活用して学習を進めていくことがで	
	きる工夫が見られる。	
	(I) 単元の配列に関しては、小単元ごとに「ウォームアップ」	P28~29
	「エクササイズ」「学びを生かす」の3段階での学習過程と	
	されており、生徒が見通しをもって学習を進められ、「探究	P22~23
	しようよ」で課題解決学習を取り入れ、より深まった学びに	
	つながるような工夫が見られる。	
	(2) 内容の面では、未知の状況にも対応できる「思考力・判断	
	力・表現力等」を育成するために、小単元ごとに「学びを生	P29
	かす」を設定し、学んだことを活用し、今後の生活に生かす	
	ための実践力を育む工夫が見られる。	
224 学 研	地域の実態から、自己の課題を主体的に解決し実生活に生	
	かすことについて、「探究しようよ」を設定し、自らの気づ	P22~23
	きや考えを書かせることで、自己の課題解決に取り組み、実	
	生活で活用できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、 単位時間の内容	
	を見開き2ページに収め、視覚的にゆったりとした紙面にな	P28~29
	っており、大きな判型の資料を掲載することで認識しやす	20 27
	く、本文の内容を資料から読み取りやすいなど学びやすさを	
	高める工夫が見られる。	
	同める工人が兄られる。	

[総評 技術・家庭(技術分野)]

発 行 者	総評	備考
	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「生活や社会を	p ③ ~ I
	支える技術」「技術による問題の解決」「社会の発展と技術」	p19
	の一連の流れの中で学習を進めることができるようにし、さ	
	らに技術の見方・考え方をマンガと連動した「最適化の窓」	
	で気付かせるなどの工夫が見られる。	
	(2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に5段	p58~59
	階の問題解決学習の流れを詳しく説明し、製作の例を3つ提	p72~77
	示してある。また、「technology」のワークシートのペー	p83
2 東 書	ジで協働学習をしやすくする工夫が見られる。	
Z	地域の実態から、学習した内容が実生活につながらないこ	
	とについて、「問題解決例」のページにおいて、学習した内	p266~271
	容ごとに課題解決の方法について設定されており、実生活で	
	も活かすことができるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味・関心を高める	
	ために、必要な技能をまとめた「TECH Lab」コーナーで	p40~41
	写真や図版を用いたり、二次元コードから作業動画などのデ	p115
	ジタルコンテンツを活用できるようにしたりするなどの工	
	夫が見られる。	
	(1) 技術科の目標を達成するために、内容ごとに「技術を見つめ	p 2
	よう」「技術をいかそう」「未来をつくろう」という一連の	
	流れの中で学習を進めることができるようにし、技術の見	p 8 ~ 9
	方・考え方を様々な立場の視点から見た問題解決で気付かせ	
	るなどの工夫が見られる。	
	(2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、4段階	p36~37
	の問題解決学習の流れを4コマ漫画でまとめてあり、製作の	p54~63
	例を2つ提示してある。また、「未来をつくろう」で技術のプ	p66
	ラス面、マイナス面を示し、協働学習をしやすくする工夫が	
 6 教図	見られる。	
O W E	地域の実態から、学習した内容が実生活につがらないこと	p 6 8
	について、「やってみよう」のページにおいて学んだ技術の	pllO
	プラス面を活かしてマイナス面を克服するための活用法が	p I 70
	設定されており、実生活でも活かすことができるような工夫	
	が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味・関心を高める	
	ために、問題解決学習で生徒が自分で調べられるように、別	別冊 p 4 ~ 5
	冊「スキルアシスト」を作成したり、全ページで二次元コー	別冊 p I 7
	ドから技能動画などのデジタルコンテンツを活用できるよ	
	うにするなどの工夫が見られる。	

	(1) 技術科の目標を達成するために、生活や社会の中にある技	p 2 ~ 3
	術に気付かせながら基礎・基本を習得させ、「問題解決→実	
	習例→学習のまとめ」という一連の流れの中で学習を進める	p12~13
	ことができるようにし、技術の見方・考え方を身近な製品の	
	特徴から気付かせるなどの工夫が見られる。	
	(2) 「思考力・判断力・表現力等」を育成するために、最初に	p50~51
	「問題解決の流れ」で4段階の問題解決学習の流れを説明	p62~73
	し、製作の例を数多く提示してある。また、「やってみよう」	plOl
	の発問で協働学習をしやすくする工夫が見られる。	
9 開隆堂	地域の実態から、学習した内容が実生活につながらないこ	p104~105
	とについて、「Interview」のページにおいて、持続可能な	p I 56
	社会の構築につながるようなインタビュー記事が掲載され	p 284
	ており、実生活でも活かすことができるような工夫が見られ	p 285
	る。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性及び生徒の興味・関心を高める	p52~53
	ために、製作等の手順に沿って分かりやすく作業を進めるこ	p115
	とができるように二次元コードから動画や資料などのデジ	
	タルコンテンツを活用できるようにするなどの工夫が見ら	
	れる。	

[総評 技術·家庭(家庭分野)]

	発	行者	総評	備考
			(I) 構成・配列については、「生活の営みに係る見方・考え方」	P12~19
			を働かせることの必要性について、1編1章の「家庭分野	
			のガイダンス」で具体例を示して確実に意識できるように	
			したり、各編の導入の見開きページでも再確認したりして、	P29
			よりよい生活の実現に向けて、生活を創造しようとする力 を育むことができるような工夫が見られる。	PII7
			で目むことがくさるような工犬が見られる。 (2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、	PIIO, III
			「学習のまとめ」では、知識及び技能の振り返りの内容が多	
			く取り入れられている。また、「いつも確かめよう」には基	P64~73
			礎的な技能をまとめ、実践しやすい難易度の低い実習例を取	
			り上げるなど、デジタル補助教材とあわせて繰り返し知識及	P127~129
2	車	書	び技能の定着を図ることができるよう工夫されている。	
_	*	目	地域の実態から、自分を取り巻く生活や社会の問題を、自	P118~119
			分事として捉えることについて、自分の生活からスタートす	P222~223
			る始めの活動から始まり、自分の生活に返すまとめの活動が	
			設定されており、自分事として捉えることができる工夫が見られる。	
			っぱる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、編の初めのダイナ	P28 29
			ミックな写真や折り込みページを用いて視覚的な効果で学	
			習を進めることができるように工夫されている。また、動画	
			やシミュレーション、ワークシートなど教科書と連動して利	P4、5
			用できる多種多様な QR コンテンツは Web ページから無料	
			配信され、授業だけでなく家庭でも活用できるようになって	
			おり、学習を主体的に進められるよう工夫されている。	515 05
			(I) 構成・配列については、章の初めで、自分の生活を見つめ なが、「白さ度チェック」で白八の状況を確認し、音の名	PI5、37
			ながら、「自立度チェック」で自分の状況を確認し、章の終わりの「学びを生かそう」で、今後取り組みたいことを考え	P32、33
			させることで、章での学びとこれからの暮らしをつなぎ、社	·
			会の一員として恊働して生きる力を身に付けることができ	. 55(57
			るような工夫が見られる。	
			(2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、	P16~19
			重要語句の強調表記や編ごとのキーワードを提示するとと	PI15~125
			もに、コンテンツを活用しながら実感を伴って学ぶことがで	
			きる。また、実習題材では「私のアレンジ」を紹介し、自分	P191
			なりの家庭実践につなぐ意欲をもたせることで、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るよう工夫されている。	
6	教	図	本的な知識及び技能の首待を図るよう工夫されている。 地域の実態から、自分を取り巻く生活や社会の問題を、自	
			分事として捉えることについて、写真やーコマ漫画を用い、 ・	P16、56、232
			身近な生活からの気づきや、気づきをより深めるための問い	
			が設定されており、自分事として捉えることができる工夫が	
			見られる。	
			(3) 学習効果や使用上の利便性については、文字と資料のバラ	P96~99
			ンスを考え、本文に沿って必要な図表や写真が適切に配置さ	
			れ、学びを助ける効果的なイラストも多く示され理解しやす	D. 3
			い工夫がされている。また、予習や復習に活用したり体験的 な学びをサポートしたりする二次元コードのコンテンツに	PI3
			は全てタイトルが付いているので活用しやすく、学習を主体	
			的に進められるよう工夫されている。	
<u></u>			1 -1·	<u>l</u>

		(1) 構成・配列については、導入から振り返りまで中学生が体	P190~192
		験しがちなエピソードや、学習者の思考を揺さぶる問いを随	
			P198、21
	解決に努めたりして、よりよい生活の実現に向けて、自ら考		
	え判断していく力を身に付けることができるような工夫が		
		見られる。	
		(2) 生活の自立に必要な「知識及び技能」を習得させるために、	P128~135
		内容を厳選して的確に記述し、調理実習では「調理方法 Q&	
		A」を取り上げ、科学的根拠に基づいた理解を深めることが	
		できるように工夫されている。また、「生活の課題と実践」	P292
		を巻末に項目を立て、習得した知識及び技能を実生活で活用	
9	開隆堂	しながら定着を図ることができるよう工夫されている。	
′	MI포포	地域の実態から、自分を取り巻く生活や社会の問題を、自	
		分事として捉えることについて、自分自身に対する問いかけ	
		から始まり、図や表を用いて深く考えたり、話し合ったりす	P54~57
		る場が設定されており、自分事として捉えることができる工	P172~173
		夫が見られる。	
		(3) 学習効果や使用上の利便性については、技能面の写真が詳	P120~123
		細で分かりやすく表現され、細部については拡大写真やイラ	
		ストを添えたり、目には見えない栄養素なども科学的に可視	P100,101
		化したりすることによって、見方・考え方を広げながら理解	190
		が深まるような工夫がみられる。また、学習内容に QR マー	P34、65
		クを付けることで豊富なコンテンツから、取捨選択して主体	
		的に活用できるよう工夫されている。	

[総評 英語]

	発	行者	総評	備考
			(I)単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「扉」「Part」	2年
			「Read and Think」「Unit Activity」などで構成し、複数の	P29~36
			単元のまとめである「Stage Activity」に向けて、スモール	P40
			ステップで積み上げてゴールにつなぐ構成となっている。特	
			に、「扉」では、単元を貫く問いを通して題材への興味を高	P40~43
			め、「Unit Activity」では、各パートの「Activity」で用い	
			た表現を生かして、目的・場面・状況を意識した言語活動に	
			取り組む工夫が見られる。	
			(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「単元を貫く	
			問い」である「Unit Question」を設定し、各 Part のスモー	P49
			ルステップの「Activity」と「Unit Activity」に取り組むこ	P50、56
2	東	書	とで、単元を通して思考を深めていくといった工夫が見られ	
_	*	Ħ	る。	
			地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような	P74~75
			技能を統合的に活用することについて、ホームページ、図表	
			やグラフなど様々な視覚情報を取り扱って読み取る力を育	
			成し、「Activity」や「Round」で自分の考え・気持ちを表現	
			する力を育成できるような工夫が見られる。	
			(3) 学習効果や使用上の利便性については、本文で使われてい	
			る文が「Key Sentences」として同ページに掲載されている	P95
			ので、本文中の重要表現を確認しやすくなっており、	
			Round I、 2 では、読解のポイントを絞って英文を読む活動	
			を段階的に設定することで、生徒の読解力育成につながるエ	
			夫が見られる。	0 =
			(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Program を「とびら」	
			「Scenes」「Tuning in」「Part」「Review & Retell」「Action」	P65~74
			で構成し、新出表現を繰り返し取り扱うことで確実な基礎・	D//
			基本の定着が期待される。特に、「Scenes」では、マンガ形	
			式や朱書きで新出表現が導入されており、巻末の CAN-DO	PI6I
			リストが「とびら」に示されている表現とリンクしていることで、白色が「年間も通して息に仕ばれま現がわれるといる	
			とで、自身が 年間を通して身に付けた表現がわかるという 工夫が見られる。	
			(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、Scenes	
			と本文の場面設定が統一され、かつ同じ言語材料を扱うこと	
			で使用場面が明確になっている。また、各 Program におけ	
			る様々な言語活動で活用した表現を「Our Project」で統合	P87~91
9	開	隆堂	の・発展的に活用する工夫が見られる。	107 71
			地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような	P103~104
			技能を統合的に活用することについて、「Retell」で本文の	
			要点を確認することで読み取る力を育成し、本文の最終セク	
			ションの「Think」で自分の考え・気持ちを表現する力を育	
			成できるような工夫が見られる。	
			(3) 学習効果や使用上の利便性については、「Scenes for	
			Basic Dialogs」で、導入→理解→自己表現の流れが同じア	P108~109
			イコンで示され、学習が進めやすくなっている。また、各学	
			年の「Our Project」の目標が示されているので、 年間の	P4~5
			学習の見通しをもち、3年間の到達目標がわかる工夫が見ら	
L			れる。	
			れる。	

	(1) 単二の様式、配列竿に関しては、ターのののな「レびご」	2年
	(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Lesson を「とびら」	
	「Scene」「Goal Activity」で構成し、「Scene」で学習した	P15~23
	内容を活用する「Goal Activity」が設定され、さらに複数の	
	Lesson 毎に統合的な言語活動に取り組む「Project」が設定	P38~39
	されていることで段階的に学習できる。特に、「とびら」で	
	は、学習の見通しを立て、題材やテーマへの興味・関心を高	
	めたり、「Small Talk Plus」では、即興で話す活動を通して	P33
	表現力を高めたりすることができる工夫が見られる。	
	(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「Small	
	Talk」「Listen and Read」「Think about Yourself」などの	
	言語活動が豊富に設定されている。また、対話のきっかけや	
 15 三省堂	理解の助けになるように資料としての写真や図、表などが多	P74~75
13 二旬至	く用いられるなどの工夫が見られる。	
	地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような	P94~95
	技能を統合的に活用することについて、各レッスンの最後に	
	設定された「Goal Activity」で、「読むこと」や「書くこと/	
	話すこと」の活動に取り組むことで自分の考え・気持ちを表	
	現する力を育成できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、各 Part の Scene	P100
	Iに「Small Talk」が設けられ、単元のテーマや題材に関し	
	た身近な事柄について、即興のやり取りができる工夫が見ら	
	れる。また、どの単元も基本文→本文理解→自己表現の流れ	
	になっており、1つの表現に特化して学習を進められる工夫	
	が見られる。	
	() 里元の構成・配列等に関しては、各 Lesson を '扉 'Part	2年
	(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Lesson を「扉」「Part」 「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具	
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具	P23~31
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、	
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、 実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特	P23~31 P32
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、 実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせ	P23~31 P32 P20
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、 実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、	P23~31 P32
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりす	P23~31 P32 P20
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。	P23~31 P32 P20
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話	P23~31 P32 P20 P44~45
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱ってい	P23~31 P32 P20 P44~45
	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さら	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」	P23~31 P32 P20 P44~45
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Task」で単元内容	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱っている。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Task」で単元内容の理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自己表	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱ってきる。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Task」で単元内容の理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自己表現活動をしたりすることを通して自分の考え・気持ちを表現	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱ってさらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Task」で単元内容の理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自己表現活動をしたりすることを通して自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な話題まで発達段階に応じた題材を扱ってきる。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するようなでは日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。の理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自己表現活動をしたりすることを通して自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、復習や定着の確認	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさせたり、「Project」では、ペアやグループなどで協働しながら、4技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近な活題まで発達段階に応じた題材を扱ってさらいる。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するようなでは日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。で理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自表現活動をしたりすることを通して自分の考え・気持ちを表現る力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、復習や定着の確認ができるよう「小学校での既習表現」が見やすく掲載されい	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさら、4 技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近なお題まで発達段階に応じた題材を扱ってきるいる。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するようなでは日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。ではいて、「Task」で単元で身に付けた表現をの理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自己表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、復習や定着の確認ができるよう「小学校での既習表現」が見やすく掲載されいる。また、基本文導入後の練習として、すぐに表現活動に入	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106 P92
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさら、4 技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近なお題から社会的な話題まで発達段階に応じた題材を扱ってきるいる。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するようなでは日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。ク理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自表現ができるような工夫が見られる。(3)学習効果や使用上の利便性については、復習や定着の確認ができるよう「小学校での既習表現」が見やすく掲載されいる。また、基本文導入後の練習として、すぐに表現活動に入ることができるように、「Tool Kit」が設けられ、イラストを	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106
17 教 出	「Task」「Grammar」「Tips」で構成し、「Tips」では、具体的な場面での活用を想定したコツが散りばめられており、実生活で生きて使える英語の能力を伸ばすことができる。特に、「Activities Plus」では、即興で話す力を身に付けさら、4 技能を使って発信する活動を通して表現力を高めたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、身近なお題まで発達段階に応じた題材を扱ってきるいる。インターネット記事、落語など本文形態が多様で、さらに「Tips」では各技能を高めるコツを「Useful Expressions」では日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するようなでは日常的な場面で使える表現を紹介する工夫が見られる。ではいて、「Task」で単元で身に付けた表現をの理解を確認したり、単元で身に付けた表現を使った自己表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、復習や定着の確認ができるよう「小学校での既習表現」が見やすく掲載されいる。また、基本文導入後の練習として、すぐに表現活動に入	P23~31 P32 P20 P44~45 P64、90 P112 P84、106 P92

		(I)単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「扉」「Part」	2年
		「Goal」で構成・配列寺に関しては、各 Unit を「扉」「Part」「「Goal」で構成し、「読む」「聞く」「書く」「話す(やり取り、	∠ 年 P19~27
			P19~27
		発表)」の様々な領域における言語活動が準備されており、	
		繰り返し英語を使いながら知識・技能の習得を図ることがで	
		きる。特に、各 Unit と帯教材「Story Retelling」を並行し	P122~123
		て学習することで、即興で話す力を高めたり、「Goal」では、	P56~57
		登場人物になりきって発信する活動を通して表現力を高め	
		たりする工夫が見られる。	
		(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、「Goal」	
		の活動では、「Part」の学習の振り返りを促すヒントが示さ	PI7
		れている。また、巻末には各学年に応じた英語の学び方ガイ	P137~143
38	光 村	ドを掲載するなど、学習者が主体的に学びを振り返り、繰り	
	76 43	返し活用できるなどの工夫が見られる。	
		地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような	
		技能を統合的に活用することについて、「Goal」では、読み	P66~67
		取った内容を登場人物になりきって発信する場面が設定さ	
		れており、自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるよ	
		うな工夫が見られる。	
		(3) 学習効果や使用上の利便性については、表現力を磨くため	
		に、各 Unit において登場人物になりきってせりふを考える	
		「You're the Writer!」のコーナーや、即興的なやり取り	P32
		をする力を磨くために、様々な質問が提示されている	
		「Let's Talk」を巻末資料として設けるなどの工夫が見ら	PI36 と PI37
		れる。	の間
			マノ1日1
		(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」	2年
		(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」	
		(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単	2年
		 (I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語 	2年 P33~42
		(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の	2年
		(I) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケー	2年 P33~42 P43
		(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるため	2年 P33~42
		(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。	2年 P33~42 P43
		(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unit	2年 P33~42 P43 P46~48
		(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けて	2年 P33~42 P43
		(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーションカを高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材	2年 P33~42 P43 P46~48
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や興	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I年 P21
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や興味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I年 P21 3年 P84
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や興味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I 年 P21 3 年 P84 2年
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や興味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I年 P21 3年 P84
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や興味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話し	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I 年 P21 3 年 P84 2年
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話したり、書いたりして自分の考え・気持ちを表現する力を育成	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I 年 P21 3 年 P84 2年
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話したり、書いたりして自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I年 P21 3年 P84 2年 P88~89
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話したり、書いたりして自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末資料として基	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I 年 P21 3年 P84 2年 P88~89
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話したり、書いたりして自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末資料として基本文が Unit 毎に見やすくまとめられており、確認や復習が	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I 年 P21 3年 P84 2年 P88~89
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話したり、書いたりして自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末資料として基本文が Unit 毎に見やすくまとめられており、確認や復習ができるようになっている。また、文法のまとめ「Focus on	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I 年 P21 3年 P84 2年 P88~89
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。(2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話したり、書いたりして自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末資料として基本文が Unit 毎に見やすくまとめられており、確認や復習ができるようになっている。また、文法のまとめ「Focus on Form」では、コミュニケーション活動が設けてあり、文法	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I 年 P21 3年 P84 2年 P88~89
61	啓林館	(1) 単元の構成・配列等に関しては、各 Unit を「とびら」「Part」「Read / Listen & Think」「Think & Speak / Write」「Let's シリーズ」で構成し、使用する領域・技能が、単元で扱う題材や言語材料と一致しており、場面に応じた英語力を育成できる。特に「Let's シリーズ」では、各領域の活動がバランスよく設定され、実生活に即したコミュニケーション力を高めたり、必要な情報、概要、要点を捉えるためのまとまりのある英文に触れさせたりする工夫が見られる。 (2) 主体的・対話的で深い学びを展開させるために、各 Unitの「Enjoy Chatting」から「Express Yourself」に向けてスモールステップで様々な言語活動が設定されており、題材としては部活動や著名なスポーツ選手など、身近な話題や味・関心の高い話題を設定するなどの工夫が見られる。地域の実態から、読み取った情報をもとに表現するような技能を統合的に活用することについて、「Project」では、聞くこと・読むことを通して自分の感想や考えをまとめ、話したり、書いたりして自分の考え・気持ちを表現する力を育成できるような工夫が見られる。 (3) 学習効果や使用上の利便性については、巻末資料として基本文が Unit 毎に見やすくまとめられており、確認や復習ができるようになっている。また、文法のまとめ「Focus on	2年 P33~42 P43 P46~48 P50~51 I年 P21 3年 P84 2年 P88~89

[総評 道徳]

発 行 者	総評	備考
	(1) 道徳科の目標を達成するために、ユニット化した「いじめのない世界へ」「いのちを考える」を、発達段階に応じた指導に最適な時期を考慮し、各学年同じ時期に配列することで、重点的な学びができるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、見開きでのポスターやグラフなどを用いたビジュアル教材で想像を広げ、読むこ	2年目次 2年 P50、P5I
2 東 書	とが苦手な生徒からも異なる立場や視点から多様な考えを引き出すような工夫が見られる。 地域の実態から、規範意識をより高めることについて、各学年に4~5つの情報モラル教材や「コラム」を設け、情報社会を生き抜く力や学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめる力を育成できるような工夫が見られる。	2年 PI34~I38
		2年 P4、P5
		2年 巻末
	(I) 道徳科の目標を達成するために、ユニット化した「いじめをなくそう」「つながり合って生きる」「いのちをかがやかせる」を、コラムと組み合わせることで、重層的に学び深めることができるような構成・配列の工夫が見られる。	2年目次
	(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、複数の教材とコラムを組み合わせたユニットや、様々な立場に立って考えたことを教科書に書き込んで整理し、他者の考えと比べる言語活動により、問題の本質に迫るような工夫が見られる。	2年P70 P7 I
17 教 出	地域の実態から、規範意識をより高めることについて、情報 モラル教材や「ひろば」を設けることで、今日的な課題に対応 する力や学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見 つめる力を育成できるような工夫が見られる。	2年 P66~71
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、巻頭に「さあ、道徳を始めよう!」を設け、話合いを深めるためのポイントがつか	2年 P4、P5
	めるような工夫がなされている。また、巻末では「よりよく生きる」ことについて、 年間の学習の集大成として表現する活動を取り入れ、これまでの成長を実感し、これからの生き方について考えられるような工夫が見られる。	2年PI88 PI89

	(1) 道徳科の目標を達成するために、ユニット化した9つのテー	2年目次
	マにおいて、幾つかの教材が関わりながらテーマに向かって考え、様々な観点でアプローチすることで、多様な学びを意識で	
	きるような構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「見方を変えて」	2年PI4
	では「考えよう」の発問とは切り口を変えた問いや呼びかけ、	
	「つなげよう」では更に深めさせたいテーマを提示するような	
	工夫が見られる。	0.45
38 光 村	地域の実態から、規範意識をより高めることについて、各学	2年
, , ,	年に2~3つの情報モラル教材を設け、他者とのコミュニケーション力や学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを	P90~P93
	ションガヤ子ルに通信的価値に思らして、自らの主席や考えを 見つめる力を育成できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、巻頭に「道徳の学習	2年 P6. P7
	構えをつくれるような工夫がなされている。また、最終教材「一	PI7I
	年間の学びを振り返ろう」では、これまでの学びを振り返り、	
	1年間の自分の成長を見つめ、これからの生き方について考え	
	ることができるような工夫が見られる。	
		2年目次
	社会を考える」などに加えて、現代的・社会的課題に対応した	
	テーマとコラムを設定することで、一人一人を尊重し、多様性 を認め合えるような構成・配列の工夫が見られる。	
	を認め合えるような構成・配列の工犬が兄られる。 (2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「学びを深めよう」	2 年
	(2) 多面的 多角的な名えがかくさるように、 子びを深めよう」 では問題解決的な学習や体験的な学習の流れと資料を提示し、	P44、P45
	生徒が話合い活動や役割演技を通して道徳的価値にせまるよ	P68、P69
	うな工夫が見られる。	·
	地域の実態から、規範意識をより高めることについて、情報	2年
	モラル教材や「視野を広げて」を設け、社会的な課題に対応す	P76~79
	る力や学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つ	
	める力を育成できるような工夫が見られる。	24
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、巻頭に「道徳科での学びを始めよう!」や「ミニ教材で考えてみよう」を設けるこ	2年 P4、P5、P6
	子びを始めより!」で・ミー教材(考えてみより」を設けることで、学びの見通しがもてるような工夫がなされている。また、	F4,F3,F0
		2年 別冊
	し積み上げ、納得解を見つけることで成長を実感できるような	道徳ノート
1		

	(I) 道徳科の目標を達成するために、最重要テーマを「いのち」	2年 目次
	(1) 垣間付の日保を達成するために、取里安チーマを「いのち」 に設定し、またユニット化した3つの内容項目を異なる複数の	4 中 日 八
	教材を連続して学ぶことで、よりよく生きることについて広い	
	視野で考えられるような構成・配列の工夫が見られる。 (2) タエザータスサンストンは、「スコーデコープ	0 5 0 6 5
	(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「クローズアップ」	2 年 P47
	では教材の内容項目に即した資料や異なる立場からの多様な意	
	見及び関連情報などを扱い、教材を軸に考えさせるような工夫	
	が見られる。	- 4-
224 学 研	地域の実態から、規範意識をより高めることについて、情報	-
		PI08~III
	る力や学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つ	
	める力を育成できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、巻頭「道徳科で学ぶ	2年 P8
	こと考えること」の中で、多様な学び方の提案や思考ツールの	
	使い方、ICTの活用の方法を設けており、関連する資料を自	
	分で調べたり考えを整理したりすることで、生徒が自ら関心を	
	もって道徳の学びに向き合うための工夫が見られる。	
	(I) 道徳科の目標を達成するために、ユニット化した「いじめ防	2年目次
	止」など重要なテーマについては連続して配置したり、「自主・	
	自律」など重点項目は年間3時間ずつ配当したりすることで、	
	学びを深められるような構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、「マイ・プラス」で	2年
	は、役割演技や話合いなどを取り入れて、生徒がいろいろな立	P46、47
	場で想像したり考えたりできるような問いを設定する工夫が見	
	られる。	
232 あか図	地域の実態から、規範意識をより高めることについて、ユニ	2年
	ット学習としての情報モラル教材や 「マイ・プラス」を設け、	P44、P45
	学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめる力	
	を育成できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、第 教材「道徳」は	2 年
		54 11
	じまりの時間」を設け、どのようなことを学んでいくのかが分	P6~11
	じまりの時間」を設け、どのようなことを学んでいくのかが分 かるような工夫がなされている。また、巻末にワークシート「学	P6~11 2年 巻末
	かるような工夫がなされている。また、巻末にワークシート「学	

233 日 科	(I) 道徳科の目標を達成するために、ユニット化を行わずに視点	2年目次
	別内容項目順に教材配列し、「考え、議論し、探求する道徳」	
	授業へ転換しやすくすることで、生徒一人一人が考えを深め、	
	探求しやすいような構成・配列の工夫が見られる。	
	(2) 多面的・多角的な考え方ができるように、生徒一人一人に「よ	2 年 P6
	りよい自分」を探究させるための、ウェルビーイングカードを	
	活用し、それぞれの考えや思いを伝え合うことができるような	
	工夫が見られる。	
	地域の実態から、規範意識をより高めることについて、情報	2 年
	モラルの問題を過不足なく設け、現代的な課題に対応する力や	P60~64
	学んだ道徳的価値に照らして、自らの生活や考えを見つめる力	
	を育成できるような工夫が見られる。	
	(3) 学習効果や使用上の利便性については、巻頭に「『道徳授業』	2 年
	を創り出そう」を設けることで、前学年の振り返り1年間の目	P4、P5、P6
	標や課題について考えられるような工夫がなされている。ま	2 年
	た、巻末の「ウェルビーイングカード」を活用することで、自	P160、巻末
	ら多面的・多角的に深く、「よりよい自分」を探究するための	
	工夫が見られる。	